

第17回星空案内人シンポジウム 一般講演プログラム・発表概要

*表示されている、開始・終了時刻は、質疑応答、準備片付けを含めての時間です。

*発表内容そのものは15分程度に収まるようにご準備下さい。

1日目（3月2日 日曜日）

セッション1

番	開始	終了	発表タイトル 発表者	発表概要
1	10:25	10:40	キレイ！カワイイ！から広がる宇宙 齊藤未来(月猫の星空さんぽ)	「宇宙ってなんだか難しそう」そう思って一歩下がってしまう全ての人へ。気軽に夜空を見上げるきっかけになってくれたら…という思いを込め、ライトなライトな私の天文普及活動(?)をご紹介します。
2	10:40	10:55	奥三河星のソムリエJr.の活動について 青山大和、生田雄誠、鎌田好桃音（奥三河星空の魅力伝える会）	奥三河星の魅力伝える会で中高生がより星空に関心を持って貰い、同年代の繋がりを星を通じて感じて欲しく結成した。主な活動内容はワークショップを始めとした中高生が自主的に興味を持ったものに理解を深めていく活動をしている。今回の発表で中高生にこれからも星空に関心を深めてもらおうと思ひ応募した。
3	10:55	11:10	三ツ星天文台と星空列車の活動 下島一雄、増田晴香（三ツ星天文台）	全国の星空2番に2回入った結果を受けてできた天文台の設置経緯から活動状況の報告と、秘境湖上駅の星空列車の紹介をしたいと思います。
4	11:10	11:25	アストロツーリズム推進協議会によるツアーガイド養成をめぐる一考察—与論島夜空のおさんぽガイドの会による実践を事例に 澤田幸輝（沖縄女子短期大学）、橋本康宏（アークトゥルス）、本園秀幸（ビーチボーイクラブ）、吉田凧沙（与論町役場）、尾久土正己（奈良県立大学）	鹿児島県与論島では、星空を地域資源とした持続可能な観光地域づくりの一環で、2019年より星空案内人講座開講によるツアーガイドの養成を行ってきた。2024年12月現在で、島内で84名の星のソムリエ®を輩出している。2022年には、星のソムリエ®を取得したツアーガイドによる連絡協議会「夜空のおさんぽガイドの会」を発足させ、島内におけるアストロツーリズムの更なる振興に向けて活動を進めている。ただしこれまでの星空案内人講座は、和歌山大学のサテライト講座の位置付けにあり、島民による自律的で、柔軟な講座開講に課題があった。以上の課題点をもとに、当会が星空案内人講座の実施団体になるための手続きを進め、2024年12月に当会主催による初の星空案内人講座を開講した。本報では、かかる講座実施で得た知見をもとに、アストロツーリズム推進協議会による講座開講の現状や課題について考察する。
5	11:25	11:40	ステラナビゲータの外部操作ツール「ステラ★コン」を作りました 秋田 守（小さな天文学者の会）、金井 康真（小さな天文学者の会）	小さな天文学者の会教材グループで開発した「ステラ★コン」を紹介します。アストロアーツ社のステラナビゲータを使って星空案内をするためのアプリケーションソフトです。ステラナビゲータを使った星空案内をされている方は多いと思いますが、操作がお客さんに見えてしまうことを不便に感じておられないでしょうか。「ステラ★コン」は「プラネタリウムのように舞台裏を見せずに、お客さんからの声にも臨機応変に対応した星空案内を行いたい。」という思いで開発しました。例えば「オリオン座の星座絵を表示したい。」というようなことがマウスのワンクリックだけでできます。動作確認はステラナビゲータ11と12で行っていますが、ほとんどの機能がLiteでも動きます。インストールから基本的な使い方の説明と動作のデモを行います。多くの案内人の皆さんに使っていただけることを願っています。
6	11:40	11:55	星のソムリエ機構2024年の活動 萩野祐司（星のソムリエ機構）	星のソムリエ機構のミッションと目標を皆さんと共に確認し、1年間の活動を振り返ります。 2024年に行った取組は・・・ 講義要綱の改訂と講師向け講習会の実施 新規実施団体の認証 星のソムリエの活動充実に向けたパンフレット制作やワークショップ企画 公式SNS（X/Instagram）の運用開始による情報発信を強化 ブランド力向上の一環として商標使用のパンフレットやロゴマーク使用ガイドラインを整備 星のソムリエ制度を支援する新組織「星のソムリエcafe」の立ち上げ準備 そして、日常的な活動として・・・ HP・membersMLの利用促進、NewsLetterの毎月発行を通じて透明性の確保と広報力の向上を推進
7	11:55	12:10	星のソムリエの大発展計画と資金支援のお願い 柴田晋平、星のソムリエ機構メンバー(NPO法人星のソムリエ機構)	2003年に星空案内人資格制度(星のソムリエ)が誕生して以来の歴史を振り返ると、今は新しい展開の時期にさしかかっていることがわかります。どのように事業を拡大して、星のソムリエを発展していきたいと考えているか、そのための、星のソムリエ機構はどのような戦略を持っているかを説明します。実現すれば飛躍の発展が望める一方で、現在の星のソムリエ機構は無償ボランティアのマンパワーに依存しており、こなせる業務の限界に達しているのが現実です。このことから、事業の実現のために、強力な資金面のサポートを講座の実施団体や全国のソムリエの皆さんからのいただきたいと思っています。具体的なお願いについて本講演では提案いたします。

セッション2

番	開始	終了	発表タイトル 発表者	発表概要
8	14:36	14:51	「たけいさんと星の女子会」開催しました 武井咲予（星空公園）	2024年9月に開催した「たけいさんと星の女子会」熊本で開催に至った経緯や当日の様子などについての発表。
9	14:51	15:06	星空を仕事に出来たらいいなあ 齋藤泰隆（浜松市）	皆さんの中には少なからず「星を仕事に出来たらなあ」と思っている方がいらっしゃると思います。星のソムリエ®資格取得の経緯と、初観望会開催から星を仕事にしていくまでの道程、そして星のソムリエ機構加入を振り返ります。

10	15:06	15:21	<p>星空とコーヒーがつながる新たな体験—四季の星空ブレンドのご紹介</p> <p>鈴木幹人（ディスカバリーパーク焼津ボランティア/焼津ほしびとの集い/ホシキミラボ）</p>	<p>四季の星空をイメージしたブレンドコーヒーは、「美しい星空をコーヒーとともに楽しみたい」「コーヒーをきっかけに星空の世界に興味を持ってもらえたら」という想いと、コーヒーショップの方との何気ない会話から生まれました。</p> <p>現在、このブレンドはイベントでの提供やコーヒーバックタイプの商品として展開されており、さらに地元IT企業とのコラボレーションにより、カフェ×NFTといった新たな取り組みを生み出すきっかけにもなりました。シンポジウムでは、各季節の星空ブレンドの特徴、誕生の背景や経緯、そしてこの企画が広げた新しい体験についてご紹介します。</p>
----	-------	-------	---	---

セッション3

番	開始	終了	発表タイトル 発表者	発表概要
11	16:22	16:37	<p>昭和のインフラ。今、令和の時代</p> <p>中野英和（ちはや星と自然のミュージアム）</p>	<p>大阪府金剛山山頂にある大阪府の施設「ちはや星と自然のミュージアム」の現状とこれからの星空案内について発表します。</p> <p>昭和の時代、大阪府の事業の一環で様々な施設が作られました。その1つが「ちはや星と自然のミュージアム」です。誰もが自然を満喫できるようにキャンプ場、温泉食堂付き宿泊施設、ロープウェイ、自然博物館、そしてコンピュータ制御可能な最新の40cmの望遠鏡が設置されました。</p> <p>令和の時代になり経年劣化と財政事情から施設の撤去、既存施設の刷新不可など心淋しい現状の中で、どうすれば皆さんに星と触れ合える機会を提供できるかをこの1年間検証してきました。自ら山を降りて山麓で実施する観望会、学校の出前授業、令和の機材による効果検証です。また、星空案内の方法に「説明する」だけでなく「体験する」を加えるようにしました。極端に偏ることなく、昭和のインフラと令和の風潮をバランスよく取入れ推進していきたい。</p>
12	16:37	16:52	<p>冬の星座で星の一生をたどろう！</p> <p>小長谷 浩児 （焼津市（ディスカバリーパーク焼津でのボランティア））</p>	<p>毎年9月に静岡県葵生涯学習センターで『アース(明日)カレッジ』という市民の学びのイベントが実施されます。「誰もがセンセイ、誰もがセイト」をコンセプトに市民が講師をつとめるもので、過去3回天文講座の講師をやりました。今回はその中の『冬の星座で星の一生をたどろう！』の紹介をさせていただきます。</p> <p>対象は小学生～大人。講座の持ち時間は60分で、主にプロジェクターを使って行いました。前半に太陽系や天の川銀河についての基本的な解説、次に地球と月を使ってその距離感や宇宙の大きさを感じてもらった後、本題の「星の一生」をウィンターダイヤモンドの星座と星々でクイズなども交えながら学びます。※今回はこの前半部分の紹介です</p> <p>後半はMITAKAのプラネタリウム機能で星空解説した後、宇宙空間機能で火星・木星・土星などを経て、観測できる宇宙の果てまでの宇宙旅行を楽しみます。</p>
13	16:52	17:07	<p>星空案内人資格認定講座の発展に向けて</p> <p>田所絵里（株式会社日本旅行）</p>	<p>昨年のシンポジウムでは弊社で実施の講座の実施報告をさせていただきました。</p> <p>今年度は、他実施団体様より受託して運営した講座も含めて4回の講座を実施しましたので、その経験談を事例を踏まえてご紹介します。</p> <p>これから講座を開講しようとしている団体様の参考になり、既に講座を開講されている団体様には共感していただけるような内容をお届けできたらと存じます。</p> <p>また、この発表が弊社を含め全ての実施団体様が開講する講座の発展につながれば幸いです。</p>
14	17:07	17:22	<p>観望会のムードメーカー～電視観望とSeestar活用法～</p> <p>井阪あゆみ（ちはや星と自然のミュージアム）</p>	<p>ここ数年劇的に進歩を見せている電視観望。こだわりを捨てて話を聞いてみるとあまりの衝撃。そして、彗星のごとく現れたスマート望遠鏡「Seestar」。</p> <p>天体に詳しくない人に天体の楽しみを伝えることに使える！と今や観望会にはなくてはならない存在となりました。</p> <p>機材はあるものの活用するか悩んでいる方にはもちろん、電視観望やスマート望遠鏡での観望方法に否定的な方にこそ、その魅力をお伝えしたく、観望会での実践例と共にお話しいたします。</p>
15	17:22	17:37	<p>人・地域と繋がる、個人事業主としての星空案内人活動</p> <p>松元理沙（移動科学館Science a GoGo）</p>	<p>移動科学館Science a GoGoでは、全国の子どもたちに科学・星空の楽しさを届ける活動を行っています。昨年はキャンプ場やゴルフ場、宿泊施設等の集客イベントや、長野県の地域活性に携わる活動など様々な場所でイベントをさせていただきました。私は個人事業主として星空案内人の活動を行っていますが、時に悩み・困ることを、同じ想いで活動する星空案内人の皆さまと相談し壁打ちができる繋がりが広がればと思っております。昨年1月1回オンラインの座談会「星空企画部」を実施し、活動報告やワークショップの壁打ちなどを行ってきました。自分が活動する上で行ってきたイベント運営・営業活動についての情報をお伝えし、同じように活動される皆さまとつながり、アイデア・情報交換ができればと思います。</p>

2日目（3月3日月曜日）

セッション4

番	開始	終了	発表タイトル 発表者	発表概要
16	10:06	10:21	星空工作をやってみよう！ にこえり（板井絵里子） ※オンライン	<p>星空案内でもよく行われる工作ワークショップ。</p> <p>子供はもちろん大人も楽しめるコンテンツですが、担当者はアイデアを出して材料を買って下準備もして…と、本業がおろそかになるほど負担がかかっているという話を耳にします。</p> <p>星空案内人であり美大卒の私が生み出す楽しい星空工作で、お客様をハッピーにしつつ、ワークショップ担当者の負担を軽減するお手伝いのお話です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内する内容をもっと理解できる！ ・楽しい思い出を作ってもらえる！ ・工作を用意する側も楽しくなる！ ・案内人が星空案内により注力できる！
17	10:21	10:36	忙しくても話せる星空－音声SNSで広がる天文のつながり 澤野雄太（星空ラウンジ☆） ※オンライン	<p>仕事や家事、育児に追われる忙しい日々の中でも、隙間時間を活用して星空や宇宙の魅力を共有する方法として、音声SNSを活用しています。私が主に利用しているのはclubhouseやstand.fmです。これらの音声SNSの最大の魅力は、場所や見た目の準備が不要で、思い立ったときにすぐ配信や交流ができる点です。忙しい人でも気軽に参加でき、リアルタイムで全国の星空ファンとつながれることが大きな特徴です。</p> <p>また、音声SNS上でのやりとりは、文字情報だけでは伝わりにくいニュアンスや臨場感を「声」で伝えられるのが魅力です。レスポンスが早く、ほかのweb情報も同時にシェアできるので、理解が深まります。</p> <p>今回の発表では、「星空ラウンジ☆」が誕生した経緯や、現在の活動、今後の展望についてもお話しさせていただきます。</p>
18	10:36	10:51	星空案内人活動報告 長野親情（NPO法人星空ファクトリー） ※オンライン	<p>星空ファクトリーでの教室展開を、今年度新潟県内で3か所のメイン会場で実施しました。また、県外会場は2か所で実施。これら教室の報告と案内人の活動についても報告して行きたいと思います。</p>
19	10:51	11:06	惑星状星雲ものがたり（仮） 鈴木泰子（星空案内人とだ）	<p>夜空に見えている星や月の間には、人の目ではなかなか見えにくい様々な星雲があります。その中の惑星状星雲とは、太陽と同程度のサイズの恒星が、年を取って、大きくなりすぎて、自分を保てなくなり、ガスを噴き出しているものです。大きな望遠鏡でみると、それはそれは面白い形に広がって、どんどん拡がって宇宙の中ではとても短命な星雲となります。（大体1～3万年程度）それ以上広がると（サイズによります）ついには温度が下がり、輝きを失います。今回は、皆さんがご存じのM57リング星雲を中心にたくさんの惑星状星雲が活躍するお話を作ってみました。</p> <p>①恒星が時間とともに変化していくこと、②大ききで行く末が違うこと、③とても短い命を大変美しく見せてくれること、④夜空でみえないスターを知ってもらうこと、⑤星空を見上げる習慣を持つってもらうこと、</p> <p>以上5つを考えて、「星空案内人とだ」のメンバー＝浅野 史さんに楽しい絵本風の映像解説を作ってもらいました。お茶・お花・お星に大人から子供まで進んでいく道に貢献できればと思っています。ストーリーは当日のお楽しみに。ご視聴心よりお待ちしております。</p>
20	11:06	11:21	サクッと観望会のススメ 都築泰久（株式会社サイトロンジャパン）	<p>天体望遠鏡をポンと置いて、月や星を観てもらおう。車不要、宅配便利用なし。ハンドキャリーOKの軽量コンパクトな機材と星空案内人のスキル・知識を活かして、気軽にみんなで星を楽しむ機会を作ってみませんか？中野のスナック、下北沢のBOOKカフェなど、いろんな場所で星を楽しんだ事例とともに、機材選びや場所選びのポイントをご紹介します。</p>
21	11:21	11:36	4次元デジタル宇宙ビューワーMitakaでガイドをしよう！ 和田浩一（星のソムリエ京都）	<p>国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクトによって開発されたソフトウェアであるMitakaは、観測データや理論モデルに基づいて宇宙を自由に移動できると共に、プラネタリウムモードにより地上からの星空体験も可能である。本発表では、Mitakaを使っの星空ガイドの事例紹介を通して、アナグリフ方式の立体視、天体写真そして動画を使ったストーリー作りの提案、さらにMitakaのコマンド実行機能の活用方法について紹介する。</p>
22	11:36	11:51	せなかに地球 おなかは宇宙 木村裕子、立岩優子、安江美香（スターラウンド八ヶ岳）	<p>春夏秋冬…四季が移ろうように、星たちにも見える季節があります 忙しい時間に追われる日々、ちょっとだけ日常を離れて星めぐり大地八ヶ岳に逃避行しませんか？ あなただけのとおき星空さんぽを、個性豊かな案内人がご一緒いたします☺</p>

セッション5

番	開始	終了	発表タイトル 発表者	発表概要
23	14:13	14:28	雨天曇天時の星空観望会 齊藤滋史（やいづ星人(ほしびと)の集い・月猫の星空さんぽ)	雨天曇天時も実施する、市町や小学校PTA等主催の星空観望会での対応

24	14:28	14:43	変光星の観測から地域貢献事業 穂積正人（兵庫県立舞子高等学校）	<p>「みんなで楽しむ天文・宇宙」を意識し、観測から天文教育の普及、地域貢献事業に取り組んでいます</p> <p>1. 変光星の測光観測⇒日本天文学会ジュニアセッションで、合宿で行なった変光星の測光観測結果を発表。</p> <p>2. 小学校で小型望遠製作⇒地元の小学生が主体的に取組、共同で行える活動内容として、小型望遠鏡製作・星の観望会を実施。</p> <p>3. 地元で観望会⇒主な内容は①Mitakaの上映, ②プラネタリムの上映, ③月・惑星・恒星の観察, ④小型望遠鏡の製作, ⑤昼間：太陽の観測（黒点やプロミネンスの観測）, ⑥昼間の星の観測などを場所・お客様の年齢・天候等を配慮しながら行っている。</p>
----	-------	-------	------------------------------------	---

ポスター・展示セッション（1日目、3月2日 日曜日に5分程度の紹介の時間を用意しました）

1日目（3月2日 日曜日）

*入退場・準備を含めて5分です。3分程度で内容をまとめて紹介できるよう準備をお願いします。

番	開始	終了	発表タイトル 発表者	発表概要
P1	12:10	12:20	ステラナビゲータの外部操作ツール「ステラ★コン」を作りました 秋田 守（小さな天文学者の会）、金井康真（小さな天文学者の会）	<p>小さな天文学者の会教材グループで開発した「ステラ★コン」を紹介します。アストロアーツ社のステラナビゲータを使って星空案内をするためのアプリケーションソフトです。ステラナビゲータを使った星空案内をされている方は多いと思いますが、操作がお客様に見えてしまうことを不便に感じておられないでしょうか？</p> <p>「ステラ★コン」は「プラネタリウムのように舞台裏を見せずに、お客様からの声にも臨機応変に対応した星空案内を行いたい。」という思いで開発しました。例えば「オリオン座の星座絵を表示したい。」というようなことがマウスのワンクリックだけでできます。動作確認はステラナビゲータ11と12で行っていますが、ほとんどの機能がLiteでも動きます。インストールから基本的な使い方の説明と動作のデモを行います。多くの案内人の皆さんに使っていただけることを願っています。</p>
P2	12:20	12:25	プラネタリウム・星空案内用小冊ハンドブック 清水 智（サイエンスギア）	<p>観望会やプラネタリウムで活用できる、話題をつなぐためのサポートツールとして小話をまとめたハンドブックを、小学校高学年向けに作成しました。本ハンドブック第1弾では、太陽系の各惑星に焦点を当て、基本情報に加え、解明されていない謎や意外性のあるトピックを取り上げて解説しています。たとえば、水星の磁場の謎や土星の北極の六角形模様などの理由など、子どもたちの好奇心を引き出す内容を盛り込みました。観望会やプラネタリウムでのインターバルや機器トラブル時に役立ち、参加者の関心を惹きつけながら科学への興味を育むことを目指しています。本ハンドブックは、教育現場や天文イベントでの活用を想定したサポートツールとしてまとめています。</p>
P3	12:25	12:30	宇宙理解に役に立つ天文教具 船越浩海（板橋区立教育科学館）	<p>星や宇宙の知識やしぐみを説明するとき、言葉や文字だけでなく図表があると理解が進みます。さらに模型などの教具があると、立体的な空間把握や動きによる現象の疑似再現により、深い理解を促すことができます。そんな教具を展示します。そのいくつかを以下に紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火星の接近模型：2年2か月ごとの火星接近のしぐみ、大接近小接近などの再現 ・惑星の運動：順行、留、逆行など惑星の運動を再現 ・月の形と位置の関係：位相（月齢）によって決まる、月の位置（方角・高度）の再現 ・火星の青い夕焼け：地球の夕焼けと火星の夕焼けの比較実験 ・簡単工作：土星やロケットなどの簡単な工作例紹介 など
P4	12:30	12:35	星空案内人取得後 初年度の活動（ほし、ごはん、うた） 渡邊勇基（茨城県つくば市）	<p>2024年初めに星空案内人に認定された。お世話になった取得団体（東京）での星空案内やボランティア参加を考えていたが、少し遠隔地ということもあり、まずは居住地である茨城県での活動を少しずつ実施してきた。本発表では、個人での活動紹介と今後やりたいことについてポスター形式で報告し、シンポジウム参加の皆様を経験を伺い、コメントをいただく場としたい。トピックは以下を考えています。（変更する可能性があります）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の農作業団体とコラボしたミニ星空案内（月見芋煮会など） ・自分の出身地自治体と連携した、子供や一般市民講座開催（宇宙の話+月の望遠鏡観測） ・個人メール署名への「星空案内人」追加と、その反応 ・星空案内人取得仲間とのゆるつながり（ボランティア、LINEなど） ・星や惑星などに関係する歌にまつわる、星空案内の検討 ・隠れ星空案内人との協力方法の模索